

地域とともに歩む

コミュニティバンクであるために……

大川信用金庫

理事長 箴島 浩 さん

住所…大川市大字榎津30511
TEL…094418616930
FAX…094418711011

今月の夢追い人は、昨年6月に大川信用金庫の理事長に就任された箴島さんにお話を伺いました。

まず、大川信用金庫の歴史についてお伺いしました。「大川信用金庫は1951年5月7日、戦後復興期にどの業種も資金不足に悩む中、初代理事長と地元有志の方々が、地元企業の金融円滑化を目的

に協同組織金融機関を誕生させるべく奔走され、職員4名、出資金220万円、会員605名、開店当日預金残高170万円で地元のための小さな金融機関大川町信用組合として設立しました。1953年4月信用金庫法施行に伴い、大川信用金庫に改組し、現在の役員数は、パートも含め154名で、2022年9月期で出資金が2億31百万円、会員数10,457人、預金残高1,626億54百万円となり、おかげさまで昨年度創立70周年を迎える事ができました。創立70周年記念事業として、街づくり、教育関係、産業の振興に関する活動など、地域の発展に寄与する活動に対して助成を行うことを目的として1993年に設立した「おかわしんきん地域振興基金」の信託元本へ追加信託1,000万円を行いました。(2021年度までに394

団体1億1,326万円助成)また、未来の宝である子供達への応援として、寄付を行うなどの活動も行っています」

では、大川信用金庫では主にどのような事業活動を行っているのでしょうか。

「信用金庫とは、株主の利益が優先される利益追求型の銀行と違い、地域の方々が利用者・会員となつて、互いに地域の繁栄を図る相互扶助を目的とした共同組織金融機関です。利益第一主義ではなく、会員すなわち地域社会の利益を優先した営業を行っております。」

大川信用金庫の経営理念は①「地域社会繁栄への奉仕」②「豊かな家庭生活実現へのお手伝い」③「地元中小企業の健全な発展のサポート」を3つの柱を掲げていて、様々な金融業務を通じて会員の皆様やお客様からの支持と信頼関係

を確立し、地域社会との共存共栄を図っていくことが重要であると考えています。地域に密着した金融機関として、これまでに築いてきた情報や企画力を基に、真にお客さまの立場に立った「お客さま本位」のサービスを提供し、より高い満足度の実現を目指しています。また、2019年度末からのコロナ禍により取

り組んできた中小企業や事業者に対する資金繰り支援も一巡したことで、現在は地域金融機関として地域事業者と地域経済回復の役割を担い、地域事業者への本業支援に重きをおいて取り組んでいます。当金庫では2010年度より、地域の事業者の皆さまに対する経営相談、経営改善などの支援を行う「地域活性化のた



大川信用金庫本店



「地域貢献事業」を実施しています。地域活性化のため経済環境の中で頑張っている地域の事業者の皆さまの「悩み」や「課題」を解決するため、中小企業診断士やデザイナー、IT関係等の専門家を活用し、職員が一緒になって支援を行う伴走型支援事業に取り組んでおります。例えば、ものづくり補助金に関する支援も積極的に行っていきますので、各事業者さまへ積極的に活用していただきたいと思います」

また、これからの大川信用金庫についてもお話を伺いま

「当金庫は、創立当初から「集める預金」ではなく「集まる預金」を基本に基盤拡充として、校納金の推進や年金アドバイザーによる年金相談や手続きに関するお手伝いに力を入れて参りました。従来、信用金庫は、Face to Face（対面）で、お客さまとだけ会話して、どれだけ話を理解して問題や悩みを解決していくかを信条としてきました。しかし、コロナ禍になり、金庫業務やお客様との接点にデジタルテクノロジーを取り入れることで、外部環境の変化に適応しつつ、新たなサービスの提供と金庫業務の効率化・コスト構造の改革を進め、持続可能な地域社会の実現に努めていきたいと思っています。地域の経済状況は、今後の

少子高齢化等人口構造の変化を背景とした企業数や人口の減少が予想される上に、今回の新型コロナウイルス感染症による影響が、今後数年間は地元経済に影響することが想定され、更に厳しい環境になると危惧しています。当金庫では、2021年4月よりスタートした長期経営計画のもと、これまでの行動方針である「スピード・スマイル・プラスワン」の「SSP」による「すべてにおいて迅速な対応」、「いつも笑顔でもてなしの気持ち」、「常に一歩先」の二歩先の対応（常にプラスワンの対応）に加え、新たな金庫スローガンである「乗り越えよう 地域と共に 新しい未来へ」、「サポート」・「コミュニティ」・「チャレンジ」の「SCC」による「常にお客さま 地域を支え」、「地域の中で一番の地域金融機関として」、「新しい未来へ繋がるために挑戦する」信用金庫を目指して参ります。また、今後も当金庫は「地域の発展なくして、地域の発展なし」を理念に、大川市、大川商工会議所、（二財）大川インテリア振興センター、（協）福岡・大川家具工業会など各団体との連携により面的再生に努めて参ります。

今年、2月に「酒見支店のブランディング（酒見支店を本店内へ移転）」、そして5月には、佐賀市内に新店舗「ゆめ咲支店」の開業を予定するなど、地産地消や新商品の紹介など県を超えた一つの

の商業圏としての金融支援・経済活動を行ってまいります。そして、新たな挑戦や経営の効率化等により安定した収益を確保した上で、現酒見支店跡地を地域活性化拠点として活用したいと考えております」

地域を支える信用金庫として根付いている大川信用金庫。では、そんな信用金庫の主軸である箴島理事長が日々心掛けていることはなんでしょうか。「一人ひとりのお客さまを大事にする」経営を心掛けています。そのために、まずは職員を大事にしなければその先のお客さまも大事にできないと考えているからです。その職員に対しては、常に私の座右の銘である「一隅を照らす」と言う言葉を伝えていきます。今自分が立っているところで、目の前の仕事を、まずは一生懸命頑張ることが、引いては『地域のため』『金庫のため』『自分のため』になり、頑張っていれば、いつかは誰かが評価してくれる。地域や取引先の課題解決のためには、知識と経験に基づく能力が必要であり、勉強も含め常に「一生懸命」であることが大事だと考えています。そこにお客さまからの『ありがとう』や『役に立ったよ』の言葉を頂き、やりがいを感じて、ワクワクする仕事を、目指して欲しい、と言っています」

信用金庫にかかわる一人ひとりを大切にしたいと話され

た箴島理事長。そんな理事長が描く夢はなんでしょうかと。

「当金庫は、全国254信用金庫のネットワークや信金中央金庫（地域創生推進スキーム）SCBふるさと応援団に大川市の「大川ブランドEC市場開拓支援事業」を推薦し昨年度1,000万円の寄付を行って、活用しながら、地域経済の活性化と共に、基幹産業であるインテリア産業を中心としたこれまでの輸入産業（当金庫は、全国信用金庫の中でも屈指の外国為替取引・ノウハウを持つ九州No.1の金庫）だけでなく、地域の技術やデザイン、そして匠の技を世界に広げて行く輸出産業の拡大を図り、世界に通用するインテリアシティとして各産業・業種が発展し、地域を元気にすることで、人生も経営もシンプルで人が輝き、町が賑わい、活気溢れる百年幸せなまちづくりが、究極の目標です。

そのためにも、我々大川信用金庫が地域の皆さまや企業からの悩みの相談や課題解決の「ファーストコールバンク」として地域になくしてはならない、地域で必要不可欠な金融機関として存在し続けることが大切であると思っております。

これからも、ビジネスコイデイナー（金融は脇役）として地域のために頑張る金融機関を、またそれを超えたビジネススクイーターを目指して参りますので、今後もご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます」



2022年木工まつり集合写真



地域貢献事業担当チーム